

● 全業績と人物像がわかる人物研究の基本ツール ●

# 野口 富士男

〈人物書誌大系42〉



9784816922534

平井一麥 編 A5・340頁 定価(本体18,000円+税)  
ISBN978-4-8169-2253-4 2010年5月刊行

野口 富士男 のぐち・ふじお  
小説家 1911年7月4日～1993年11月22日

■東京市麹町区(現・千代田区)生まれ。慶應義塾大学中退、文化学院卒。『風の系譜』で実質的に文壇デビュー。その後から戦後にかけて多くの同人雑誌に関係をもつ。日本文藝家協会理事長、日本藝術院会員。

■代表作に『徳田秋聲傳』(毎日芸術賞)、『わが荷風』『かくてありけり』(読売文学賞)、『なぎの葉考』(川端康成文学賞)、「作家としての業績により」日本藝術院賞、『感性的昭和文壇史』(菊池寛賞)などを受賞。平成2年7月、歿後、埼玉県越谷市立図書館に蔵書、生原稿などを寄贈し、「野口富士男記念文庫」が作られた。

## 昭和期文壇界隈の動向もわかる！

- 戦前から平成まで文壇で活躍した野口富士男の本格的な個人書誌。中学校時代の同人活動から編集者時代を経て、日本文藝家協会理事長を務めた晩年までの全業績がわかります。
- 野口本人が書き遺した自筆年譜・著作メモをもとに、小説・書評・解説・対談などのほか、野口とその作品についての参考文献を合わせて約2,900件収録。全著作の初出・収録書籍も一覧できます。
- 長男である編者が編纂しているため、年譜も家族でなくては書けないオリジナルな内容となっています。年譜に登場する野口と親交のあった昭和期文壇関係者を検索できる「人名索引(年譜)」付き。

### 目次

- I. 初出目録  
初出目録  
再録作品目録
- II. 著作目録  
1. 単行本  
2. 共著・編著
- III. 年譜
- IV. 参考文献
- V. 索引  
作品名索引(初出目録)  
人名索引(年譜)  
付録：各種会合、文学賞など(年譜)  
執筆索引(参考文献)

### 編者プロフィール

平井一麥 ひらい・かずみ

野口富士男(本名・平井富士男)の長男。昭和15年、東京生まれ。慶應義塾大学法学部卒業、会社退職後、61歳で同大文学部に学士入学。著書に『六十一歳の大学生、父野口富士男の遺した一万枚の日記に挑む』文春新書。

紅野敏郎氏  
(早稲田大学名誉教授)による  
「刊行に寄せて」より

野口の記録魔、メモ魔的要素は、その周辺の人とはもとよりのこと、外縁の人にまで及んでいる。先輩、友人、後輩その他文芸家協会、日本近代文学館、日本近代文学会などにおいて、彼が接し、触れた人びとがなんと多数、幾回も記録されていることか。異常な執着があつてのことか。会合と葬儀がいかに好きであつたか。それは作家にとって必要なナマの人間観察の土台となっていたのだ。彼は文壇のなかの人だが、文壇の主流に棹さして、という作家ではない。関心と興味は終始持ちつつも、若干身をずらし、佇立し、眺めていた文学者であった。感触が本人の記録につながり、一麥氏の編集、再構成で、記された人びとすべてがよみがえってくるのだ。

2020.6

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名	野口 富士男 〈人物書誌大系42〉 定価(本体18,000円+税) ISBN978-4-8169-2253-4	冊
	注文書	
	■お名前	

I. 初出目録

昭和48(1973)年

昭和48(1973)年 62歳

- A0922 1月 解説\*《解説》舟橋聖一著『日本文学選集第60巻—舟橋聖一集』集英社刊 p415～446
- A0923 1月 昭和十年代文学の見かた①(紅野敏郎と)《対談》「風景」 p28～37 ⇒ 16
- A0924 2月 昭和十年代文学の見かた②(紅野敏郎と)《対談》「風景」 p32～42 ⇒ 16
- A0925 3月 明治四十二年十二月「わが荷風」①「青春と読書」 p13～19 ⇒ 15, 31, 43, 44
- A0926 3月 一色次郎『左手の日記』を読む「青娥書房月報」 p1～3
- A0927 3月5日 舟橋聖一『文芸的グリンプスII』《書評》「サンケイ新聞」 p7
- A0928 3月10日 都内あるき「朝日新聞」・夕 p7 ⇒ 26
- A0929 3月17日 道路というもの【自筆は49年】「今週の日本」 p10 ⇒ 26
- A0930 4月2日 小説のはなし(1)成人文学を読むためには「毎日小学生新聞」 p4
- A0931 4月9日 小説のはなし(2)物語から発展した小説「毎日小学生新聞」 p4
- A0932 4月16日 小説のはなし(3)作者の意見を書く近代小説「毎日小学生新聞」 p4
- A0933 4月23日 小説のはなし(4)人物の心のなかも深く表現できる「毎日小学生新聞」 p4
- A0934 4月30日 小説のはなし(5)小説の読み方「毎日小学生新聞」 p4
- A0935 5月 地理感覚「小説サンデー毎日」 p232～233 ⇒ 26
- A0936 5月 順境のなかの逆境「わが荷風」②「青春と読書」 p26～32 ⇒ 15, 31, 43, 44
- A0937 5月 和田芳恵・尾崎秀樹対談「大衆文学の動向」を司会「風景」 P30～39
- A0938 5月 編集後記「風景」 p63
- A0939 5月7日 小説のはなし(6)永井荷風の『狐』「毎日小学生新聞」 p4
- A0940 5月10日 近況くきのうきょう(聞き手:植田満文)《インタビュー》「東京新聞」 p4
- A0941 5月14日 小説のはなし(7)
- A0942 5月21日 小説のはなし(8)
- A0943 5月28日 小説のはなし(9)
- A0944 5月28日 出もどり編集長
- A0945 5月30日 若者は何してる
- A0946 6月 野田宇太郎・大竹新助
- A0947 6月 編集後記\*「風景」
- A0948 6月4日 小説のはなし(10)
- A0949 6月11日 小説のはなし(11)
- A0950 6月18日 小説のはなし(12)

●野口富士男が他界するまで つづった自筆年譜および著作リストをもとに記載

III. 年 譜

昭和41(1966)年

昭和41(1966)年 55歳

- 1月1日 『徳田秋声伝』により第7回毎日芸術賞受賞。(贈賞式は1月14日)。
- 1月2日 今回拝受した祝電では、知名度が高いという意味では決してなく、意想外だったという意味で、三島由紀夫、丹羽文雄、山本健吉から頂戴したものが最も嬉しかった。
- 1月14日 直子と毎日芸術賞会場日活国際ホテルへ行く。一麥は会社から来る。佐多稲子、和田芳恵、船山馨、八木義徳、芝木好子、大久保房男、野村尚吾とお茶、芝木、大久保と銀座松坂屋の夏日漱石展をみてスシをご馳走になる。
- 1月21日 紀伊國屋に寄るも田辺茂一不在のため、名刺に受賞式にご出席、祝辞を述べていただいたお礼を書いて秘書に委託。「三田文学」事務所藤沢閑二と小話。ペンクラブ第1回編集委員会、芹沢光治良(会長)、立野信之(専務理事)、勝本清一郎、中島健蔵、箕輪錬一。今日は創立前後から、戦局の深化するころまでの話題。
- 1月24日 ペンクラブに行き、テープを廻してもらって筆記加筆。
- 1月27日 読売文学賞受賞(小説)の庄野潤三に祝意打電。
- 1月29日～30日 直子と湯河原・緑水に1泊。小田原城内で川崎長太郎に会い、毎日芸術賞の祝意を受ける。

●日記から年譜へ転記された詳細な行動記録により、交友のあった「昭和文士」の活動も浮き彫りになる。

好評既刊

人物書誌大系38 倉橋 由美子

田中絵美利・川島みどり編 A5・310頁 定価(本体16,000円+税) ISBN978-4-8169-2099-8 2008.3刊

人物書誌大系40 今日出海

今まど子編 A5・340頁 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2196-4 2009.7刊

人物書誌大系41 吉村 昭

木村暢男編 A5・470頁 定価(本体18,200円+税) ISBN978-4-8169-2240-4 2010.3刊